

日本社会開発基金

成果報告

25周年記念版

低所得女性のための金融包摂の強化

インド：インフォーマル・セクターのデジタル金融包摂プロジェクト

2019年 - 2023年 | 273万ドルのグラント

急成長するIT部門は過去20年間にわたってインド経済を変革してきましたが、インフォーマル・セクターで働く女性は取り残されています。インドでは、モバイル機器を所有する88%の家庭のうち、女性は男性に比べて携帯電話を所有する割合が23%低く、またインターネットを利用する割合が68%低いという結果が出ています。特に農村部でその傾向は顕著です。しかし、携帯電話はデジタル金融やモバイル・バンキングにアクセスするために欠かせないツールです。また、携帯電話は、利便性、安全性、プライバシー、高度な金融サービスへのアクセスも提供しています。

世界銀行が管理する日本社会開発基金(JSDF)のグラントによる「インド：インフォーマル・セクターのデジタル金融包摂化プロジェクト」は、女性自営業者協会(SEWA)が運営し、低所得で社会から取り残された世帯の女性がデジタル金融サービスに参加する機会を増やすことを目的としたものでした。プロジェクトでは、デジタル・金融リテラシーに関する研修が実施され、SEWAのメンバーに、現在の市場ニーズに対応し、生計を改善し、所得を増やすための知識とツールが提供されました。

プロジェクトの対象は77万1,713人の女性で、接続と研修の両方に重点を置き、SEWAのサービス

と社会事業のデジタル化支援、全体的な効率と生産性の向上において重要な役割を果たしました。

プロジェクトではさらに、女性のためのインフォーマル・セクター向けアプリケーションである「SEWAアプリ」が開発・展開されました。アプリは、自分のペースで学習できるeラーニング・プラットフォームや、政府の施策などの関連情報に関するプッシュ通知を備えています。

プロジェクト終了時点で、アプリのユーザーは5,000人を超えました。また、SEWAがデジタル・金融リテラシーに関する研修を提供する能力を大幅に強化するため、プロジェクトの下で500人のマスター・トレーナーのネットワークが構築されました。その結果、今では各ブロックまたは地区に現地のリソース・パーソンが配置され、女性がこの先何年も支援と指導を求めることができるようになりました。プロジェクトによる持続的な支援を確実にするために、民間フィンテック企業や国立銀行との連携も構築されています。

SEWAのプロジェクト・コーディネーターであるスミタベン・キリトバイ・ヴァゲラ氏は、「インド：インフォーマル・セクターのデジタル金融包摂化プロジェクトは、SEWAのメンバーがデジタル・金融リテラシーを強化する上で大きな支援となっています。実践的な草の根の経験の適応に柔軟に対応したことが、プロジェクトの実施において非常に役立ちました」と述べています。

また、SEWAは、女性がスマートフォンを所有していないことがデジタル金融サービスへのアクセスの主な障害であることを認識し、女性に携帯電話を購入するよう奨励し、SEWA銀行を通じて手頃な価格の融資を組めるよう支援しました。

参加者が新たにスキルを習得したことの恩恵は、すぐに明らかになりました。プロジェクト完了報告書の執筆者によると、「プロジェクト受益者が習得したスキルは、2020年と2021年にインドで新型コロナの第1波と第2波が発生し都市が封鎖された際に特に有用であることが証明された。SEWAのメンバーは、他の都市や州にいる家族との間での送受金、オンライン・プラットフォームを経由した子どもたちの授業の支援、WhatsAppを使ったSEWAの農産品サプライチェーンの食料品の注文、WhatsAppを利用した医療や保健関連の情報の共有、他のSEWAメンバーやSEWAスタッフとのバーチャル会議の開催などが可能になった」としています。

スミタベン・キリトバイ・ヴァゲラ氏は、「プログラムを通じてメンバーがデジタルリテラシーを身につけたおかげで、私たち全員が互いにつながり続けることができました。また、助言、相談、保健指導、気づきの面で互いに助け合うことができただけでなく、デジタルトレーニングを継続することができました。メンバーは、必要なときに家族にデジタル送金することができます。SEWAは、デジタルトレーニングを受けたチームメンバーによって管理されている、24時間体制のヘルプラインを開設しました」と述べています。

